～千葉から世界へ～ 土を耕す！未来を耕す！
―「市民エネルギーちば」代表　東（ひがし）光弘さんに聞く―

24歳で、「無農薬の大根からソーラーパネルまで」幅広く環境問題を伝える「GA（ガイア）」を立ち上げた東さん。エコ雑貨の卸、千葉市での自然食品店の経営を経て、現在はアースデイちば実行委員会代表、ちばレポ（選挙で日本を変えたい市民の会・千葉）共同代表などを務めながら、匝瑳市に拠点を構え、昨年9月に日本初のソーラーシェアリングによる市民共同発電所、35ｋｗの「Sun Agri」を完成させました。（今年9月、22ｋｗ増設）

「伝える」にはまず、楽しく仲良く

GAIAは反原発のコンセプトからスタートしたので、開店当初はドイツ緑の党のポスターを店中に貼っていたんですよ。緑の地に、黄色のひまわりがお洒落で。関心のなかった人たちにも入ってきてもらうには、新しいビジョンや「きれい」「おいしい」といったことがすごく大事です。卸をやっているときに全国を回る中で、やはり地方の元気と東京の元気とは、両輪なんだなと感じました。「アースデイちば」を始めたのは、みな素晴らしい活動をしているのにばらばらだったから。例えば動物実験に反対している人が、必ずしも原発に関心があるとは限らないとかね。最近はやっと横のつながりができて、市民団体も小さな天然酵母のパンやさんも、農家さんも「根っこは1つだ」ということが定着してきました。最初はうまくできなくても、土壌の循環が育まれていくうちにだんだん元気な作物ができてくるもの。千葉県全域でこうしたイベントが増えたので、太陽光利用の音響設備や電源を格安で貸し出すほか、手続きなどをサポートしています。

「環境がこんなに危ないのに、なぜみんな気づかないんだ」という上から目線ではなく、『場』を通じて焦らずに、まずは楽しく仲良く、コミュニケーションしていく中で徐々に伝わってくるのかなと思います。

今年で14回目を迎えた、アースデイちば

土を耕し、未来を耕す「ソーラーシェアリング」

25年間、原発に反対してきたけれども、僕らは3・11を防げなかった。事故後、集中的に自然エネルギーの勉強を行いました。「市民エネルギーちば」は9人で作った小さな合同会社で、出た利益はすべて環境活動に還流させると定款に謳っているので実質はNPOです。

野立ての普通の太陽光発電は、緑だったところをはがしてアスファルトをひくか防草シートを張る、もしくは強烈な除草剤を撒きます。でも僕たちのパネルの下では基本的に、微生物の力を活かした有機農業をやっていきたい。微生物は、空気中の窒素や二酸化炭素を土中に固定してくれます。慣行の農家さんが参加したいとうときには、対話を重ねながら、最初は一番毒性の高い殺菌剤からやめてもらうとか、春先の除草剤以外はやめてもらうとかしてね。今は、農薬を使わない大豆作りをしています。

パネルの面積は、その下の畑の1／3くらい。適度な日陰があったほうが作物はずっとよく育つんです。落花生やさつまいもなどは、収量も上がるし形もよくなる。暑すぎると、根から吸い上げた水分を蒸散に多く使ってしまって光合成に回らなくなってしまうわけです。日陰があれば、農作業もずっと楽ですよね。

見学後、おじゃましたメンバーと東さんとで

「畑の上の発電所」で地域再生！

全国に200か所あるソーラーシェアリングのうち半分が千葉にありますが、僕たちは単なる太陽光発電事業ではなく、農業の1つの形としてやっていきたい。最初は「とにかく市民発電所を作ろう」との思いが大きかったのですが、2年めからは畑も5反歩借りて、エネルギーと循環型農業を組み合わせた地域再生プログラムの方法論としてやっていくことにしたんですね。それが、外房地域の人口流出を抑えることにもつながればいい。現在は自社で1600ｋｗの計画を進めるとともに、他の環境系の小さな会社が始める市民発電にもどんどん提携・協力していますし、誰でも真似できるよう部品やマニュアル、ノウハウを公開していきます。

Sun Agri の全景

畑の上で発電をすれば、そこから収入が得られます。そして青果の取扱高が年々減って作物だけじゃ採算が取れない今、農的環境自体を観光資源として付加価値をつけて、人が集う形の農業にしていかないといけない。あずまや、加工所なども備えた農的公園みたいなものを作り、自然エネルギーの勉強ができる場も作りたい。農山漁村再生可能エネルギー法（※）を使って、これから準備を進めたいと思っています。

Sun Agriのパネルオーナー様には、10年契約の場合で5000円／枚の収入になります。自然エネルギーにはインカム（収入）がつくので、活動を継続させやすい。環境問題は好きでやっているわけだから日常的に携われたほうがいい、収入にもなったらなおさらいい。経済的にも自立していれば、持続できます。

使い道が分かる住民参加型の地方債「市原みんな幸福（しあわせ）債」（市原市）を例に、私たちも匝瑳市に働きかけ、地域住民が出資するソーラーシェアリングを提案しています。

原発を止めて自然エネルギーを増やすということは、お金の地域循環という観点でもみんなが参加できるので、その意味やリスク・メリットも共有してもらいたい。地元にお金が還流するしくみを作りながら「コミュニティパワー」を作っていきたいんです。グリーンズ千葉でも、自分たちの発電所を作ったらいい。技術指導なんかはこちらでやるので、みんなで柱を運んだり、ねじ締めをしたり、とても楽しいですよ（笑）。

（構成／真木 彩子）

頭だけでなく手と足も使って、
「楽しい！！」をテーマに
自然エネルギーの普及に取り組んでいきます

※農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー電気の発電の促進に関する法律（26年5月施行）

インタビューの全文は、グリーンズ千葉のホームページでご覧になれます（裏表紙参照）。

市民エネルギーちば

＊市民発電事業部　パネルオーナー制度を活用した共同発電所の運営
＊パネル販売事業部　ソーラーパネル販売に関する管理・運営
＊コーディネート事業部　市民発電所に関する施工・リース・コンサルタント

県内の環境や自然エネルギーに関わる6つのグループの団体有志が集まり、2014年7月に設立。「私たちのチカラで創る地域のエネルギー」をめざす、非営利型の合同会社です。

匝瑳第一発電所「Sun Agri」所在地
匝瑳市飯塚2634

パネル作りや設置作業の見学・体験を歓迎します！宿泊も可。